

大塚駅周辺「放置自転車クリーンキャンペーン」実施 ～ 地域が一体となって「放置自転車をなくそう！」～

本日 21 日(火)午後 2 時から、JR大塚駅周辺において、地域住民自らが放置自転車の整理整頓を行ない、安全で快適な駅前にしていこうと「放置自転車クリーンキャンペーン」が行われた。同キャンペーンには地域の住民 52 名をはじめ、区職員、巢鴨警察署員、JR大塚駅員など、計 75 名が参加した。「放置自転車クリーンキャンペーン」は平成 15 年から毎年実施されており、今回で4回目を迎える。

主催：南大塚防災まちづくりの会(長谷川秀夫会長)、北口連合会

これまで、「放置自転車クリーンキャンペーン」は、『南大塚防災まちづくりの会』が主催し、大塚駅南口地域を中心に行なわれてきたが、今回からは、大塚駅北口地域の町会や商店会も加わり、平成 21 年度完成予定のJR大塚駅南北自由通路開通に向け、大塚のまち全体を巻き込んだキャンペーンへと成長している。

日 時	11 月 21 日(火) 14 時～15 時
場 所	JR大塚駅前
主 催	南大塚防災まちづくりの会(長谷川秀夫会長)、北口連合会 協力：豊島区、巢鴨警察、JR大塚駅、南口各町会、北口各町会、南北大塚駅周辺各商店会、大塚駅周辺を考える会
キャンペーンの様子	<p>キャンペーンに参加した地域の方々は、4 つの班に分かれ、南北の駅前や歩道、路地など乱雑に置かれた自転車を整理し、注意と協力を求めるチラシをハンドルなどにホチキス留めするとともに、マイクを使って自転車の放置を止めるよう呼びかけた。参加者からは「ビールをつけている傍で、自転車をとめていく人がいる。あまりにも無神経」「これでは車椅子どころか、人だって通れない。駐輪場所が足りないのもわかるが、もっと他人の迷惑を考えて欲しい」などの声が聞かれた。</p> <p>キャンペーンの1ヶ月前に取り付けた撤去の「警告」チラシが付けられたままの自転車は、区の交通安全課の職員がトラックに積んで撤去し、その数は自転車 65 台、原動機付自転車 1 台にのぼった。</p> <p>このキャンペーンを主催する南大塚防災まちづくりの会の長谷川秀夫会長は「大塚駅の改修によって大きな駐輪場ができるまでは、こうした活動を続けていきたい。南北自由通路の開通予定もあって、北口の皆さんとの交流も生まれているので、これからも協力していきたい」と話している。</p>
補 足 事 項	<p>早くから開発が進んだJR・都電荒川線大塚駅周辺は、まとまった自転車駐輪場が確保できず、区内で 5 箇所あるJR駅の中で、唯一放置禁止区域の指定ができない状況にあり、継続的な放置自転車の撤去活動ができずにいる。このため、東京都生活文化局が実施した「駅周辺における放置自転車等の実態調査」では、大塚駅は、放置自転車台数が 1,928 台と、都内ワースト 2 位(平成 17 年 10 月調査実施)となっている。こうした状況を抜本的に改善するため、区が今年 6 月に策定した「豊島区自転車等の利用と駐輪に関する総合計画」では、鉄道事業者からの用地提供や既存の自転車置き場の再整備により、大塚駅周辺に、今後 10 年間で 1800 台の駐輪場を整備することとしている。</p> <p>南大塚防災まちづくりの会は、地区住民の防災に関する意識啓発と、住民の手による災害に強いまちづくりへの取り組みを支援するため、平成 9 年に策定された、豊島区「防災まちづくり基本計画」に基づく、地区防災まちづくり支援事業(現(財)としま未来財団実施)をきっかけに発足した。平成 11 年 3 月に事業が終了した後も自主的・継続的な活動を展開しており、安全で住みやすいまちになるよう、定期的なまちの点検会や町会間の情報交換を重ねながら、防災の観点から街の問題について話し合い、また、「勉強会」を企画し、防災意識の普及・啓発活動も行っている。</p>

ビラを取り付ける長谷川会長



駅前に放置された自転車にビラを取り付け



問 合 せ

としま未来文化財団